

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401717
法人名	株式会社 あおいホーム
事業所名	グループホーム あおい (ユニット名 2F)
所在地	福岡市早良区西入部2-7-20
自己評価作成日	平成28年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成28年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川に囲まれ、昔を思い出させる様な懐かしい風景を感じさせる。周りの田畑もホームの庭園の借景として取り込み、広々とした自然の景観がある。昨年開設10周年を迎え、ご家族からも「あおい」で良かったと言う言葉に職員もなお一層の介護力を目指している。我が家の様な雰囲気や大切に、利用者とその家族との信頼関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あおいの理念及び理念に伴う基本方針を1F・2Fの玄関及び事務所に掲げ、朝礼で唱和し実践出来る様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事・秋祭りには地域の方々の参加を得て利用者と楽しく過ごす。又、ボランティアの方に洗濯たたみやレクリエーションにも参加してもらっている。近隣の自宅のお花見の招待も誘って、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事にボランティアの方から参加の依頼があったり、介護の実践を運営推進会議等で報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域の民生委員・地域包括支援センター・訪問看護ステーション理事長・家族会の代表2名の出席を得、あおいの職員(看護師・介護士)より利用者の状況報告も兼ね活発な意見交換を実施している。他施設からの参加も歓迎している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・地域包括との連携を密にして、情報交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全第一を考え、やむを得ない状態の時のみ家族に説明し同意の上行っている。ケアの工夫を行い、カンファレンスをかけている。 身体拘束委員会で話し合い、職員会議で報告している。日々のケアの検討を行うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士お互いに注意をはらう事が出来ている。虐待防止委員会を開き確認している。 職員会議や内部研修等で不適切なケアを行う事の無い様にスキルアップに努め、職員がストレスを溜めないように声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、グループホーム協議会及び研修等で権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を得る。その成果を研修報告として職員会議等で職員に伝える様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者の家族に充分説明し、理解納得して頂き了解を得る。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に面会に来やすい雰囲気や環境作りを心掛け、職員としてのコミュニケーションを図りながら、利用者の様子や家族の意見等を参考にしてケアプランに生かしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員全体の会議を実施している。終了後は各階においてフロアミーティングを行い、職員間の意見を出し合い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、給与水準を検討し、個々がしっかり自分の能力を発揮し仕事が出来る様な環境を作りたいと考えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	管理者として、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様になっている。又、職員が働き易い環境を作るべく個々の能力を發揮し易い勤務体制を作りたいと考えている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の外部研修への参加を促し、入居者に対しての対応・言動・お一人お一人に尊厳を持って介護に当たる様に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	イベント等の企画を担当する事により、職員一人ひとりの実力を確認しあい全体的に能力を高めている。 内外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流や勉強の場として「いとの会」を設け、視野を広めネットワーク作りに役立っている。 グループホーム協議会等の研修も他施設との交流の場としている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや思いを傾聴し、不安や心配事を安心出来る様に寄り添い、相互の関係を築いていけるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へ近況報告を行い、ご家族の思いを大事にし、信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を詳しく聞き、家族からの希望もふまえ当ホームの特徴を伝え、他のサービス利用の可能性もある事を伝えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態に応じて声かけや見守りを行い、自分で出来る事はして頂く等の支援や援助を行う。又、コミュニケーションを図りながら入居者の事を多く知り、相互の信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に近況報告を行い、情報を共有し信頼関係を深められるように努めている。行事やお誕生会は家族の参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に置いてある写真等を見て、その頃の様子を聞き取り、次の機会の時にこちらから話す事で又思い出され話が弾む。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の情報を把握し、見守り声かけを行い、利用者同士がコミュニケーションを取れる様に支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても「近くに来たから…」「お花を持って来ました」と退居されてご家族からホームに寄って下さる事は嬉しく思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を傾聴し、気持ちに添う様になっている。又、困難な場合には家族に尋ねたりして検討・対応している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴など生活の流れを重視し、これまでの培われた日々の事を今の生活に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の出来る事やしたい事が出来る様に、本人と話したり、今まででの様な暮らしをして来られたか等、家族に伺う事もある。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや状態の変化が見られた時は、家族やスタッフと話し合いを持ち、必要に応じて訪看や医師に相談し、意見を聞きながら介護計画作成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度気づいた事は必ず記録し、検討し計画の見直しをしている。 スタッフの情報を共有しケアの実践記録に取り入れている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事や入居者の誕生日会等、地域の方や家族の方をお招きして、一緒に楽しむ事が出来る様に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主治医の往診や訪問看護ステーションとの連携をとり、日常の健康管理等に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に主治医を決定し、内科・精神科・歯科・眼科の往診を受けている。又、訪問看護ステーションと24時間体制の医療連携をとっている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常の変化や情報等はスタッフ全員が共有出来る様に毎月職員会議の後にフォーミュラミーティングを行っている。その中で必要時には家族や訪看に相談し、家族の望まれる看護を受けられる様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より訪看と家族との話し合いの場を持ち、医師や看護師より状態の説明を受け、退院後のリハビリ等の対応についても相談出来る様に退院後の関係作りを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは年2回の割合で状況報告の場(面談)を設けている。その時点での家族の意向を確認する。終末期には家族と面談を何度も行い、看取りの同意書を執り、医師・訪看・家族・スタッフとの連携を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急や事故発生時には訪看に連絡する。初期対応や緊急処置は、消防署での講習に参加し訓練を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ全員の緊急連絡網を作成し、常に連絡が取れる様にしている。 建物もスプリンクラーを設置し、消防学校や近隣との協力体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のこれまでの生活等を把握し、家族にも今までの話を伺い、その人らしい生活が出来る様に努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いに寄り添い傾聴し、どうしたいのかを考え対応する様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日の生活の中で、個々のペースを大切にして、サービスと業務とのバランスを考えて支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・洗顔(顔拭き)・整髪・衣類の好みや、汚れ・ほつれはないか点検し、その都度対応している。 又、行事の際はお化粧をしたり、アクセサリーをつけおしゃれを楽しんで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や食材の事を話しながら、楽しい雰囲気ですべてを頂く様に心がけている。 行事食(おせち・ひな祭り会席・長寿の祝い・クリスマス会・野外食)で工夫しながら雰囲気を盛り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は身体の機能に対応した食事を、食べる量や栄養バランスを考え提供している。水分摂取量は、毎食後・10時頃・おやつ時・就寝前の量を記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・入れ歯洗浄・舌ブラシでのケアを行っている。歯磨きが出来ない方は口腔ケアティッシュで口腔内を拭き、清潔を保つ様にしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する。オムツを使用している方も声かけをして誘導しトイレで排泄をする様に支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操やリハビリ体操で体を動かしてもらい、運動により排泄を促す。便秘がある時は、水分を多く飲んで頂く様に声掛けをする。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に午後から行っている。拒否がある場合は、時間をずらしたり曜日を変更し、再度声かけをして入浴して頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや体調を考慮しながら取って頂く。夕食後から入眠までの時間帯や不穏な方に対し、その行動を理解し見守りや不安な言動には傾聴し、安心して入眠出来る様に支援する。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の症状や状態を把握し、処方箋の薬剤の目的や効能効果・注意事項や副作用を理解する。常に状態の観察をし、変化があれば訪看に報告する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きや洗濯物たたみのお手伝いをして頂く。毎日の歌やレクリエーションを行い、楽しんで頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭で日光浴をして、歌やレク体操やお茶をしている。 又、ドライブや外食(おやつ)を行い、室内とは違う雰囲気が楽しみになる様に支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は金銭の管理は出来ないので、必要であれば外出をして一緒に買い物に行ったりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より「手紙を書いてほしい、出してほしい、電話をかけてほしい」との希望がある時は、家族に了解を得て支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールの整理整頓に心がけている。 居室や玄関や壁等に、季節の花や行事の時の写真等を貼っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で過ごされる時間が多い為、TVを観やすい様に移動したり、テーブルにてスタッフと談話しながらお茶やお菓子を摂る時間を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に置いてあった思い出のある物等を持参されている。又、家族の写真や行事等の写真を飾っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時には物や椅子等につまずかない様に設置し、個々の状態に合わせた配席に配慮し、安全確保に努めている。		